

投資家・アナリスト向け説明会 主な Q & A
(2012年10月31日開催)

グループ経営構想V ～限りなき前進～

[変わらぬ使命]

Q： 「戦略的新駅」の設置に向けたプロセスは、どのようなタイムスパンで進めるのか。

A： 新駅の設置について、事業性を多角的に検証し、地元自治体などとの連携により進めたいと考えています。たとえば、他社の路線との接点になる場所や駅間の長い区間などを想定しており、具体的には、これから検討していきます。

Q： 品川開発プロジェクトの現在の進捗は。

A： 交通の拠点としての機能が今後大きく高まるエリアであり、かつ、国内屈指の開発規模であることから、地域と連携しながら、従来の発想に捉われない国際的に魅力のある「まちづくり」を目指します。

[無限の可能性の追求]

Q： 海外拠点を新たに設置する都市としてブリュッセルとシンガポールを挙げた理由は。

A： ヨーロッパの優れた鉄道技術を取り入れたり、海外の優れた製品の調達を進めたりするためにも、ブリュッセルは事業拠点を置くにふさわしい都市です。

アジアについては、今後、都市鉄道をはじめとする鉄道建設プロジェクトが動き出すと期待しており、シンガポールなどを事業拠点の候補として検討を進めていきます。

Q： M&A や海外展開などについて、どのように取り組み、どのように評価していくのか。

A： たとえば、過去の M&A では、おおむね目的を達成したと考えています。

今後の様々な案件も、必要性や投資効果などに基づき判断しますが、技術革新や海外展開など、中長期的な視点に立って判断していくものもあると考えています。

[キャッシュの使途]

Q： 3年間の設備投資計画を合計で500億円増額しているが、何に投資するのか。

A： 技術革新、グローバル化、サービス品質改革、地域活性化、観光流動創出、地域との連携など、中長期的な観点から、会社の成長につながるものに振り向けていきます。

Q： 株主還元を目標を「連結配当性向30%」から「総還元性向33%」に変更した背景は。

A： これまで、「連結配当性向30%」を目標に掲げつつ、安定した配当水準を維持することも意識してきました。その結果、当期純利益の減少により連結配当性向が目標の30%を大きく超える期もありました。

今回、目標を「総還元性向」に変更したうえ、取得した自己株式については基本的に消却することとして、自社株取得を株主還元のメニューとして改めて定義付けることとしました。

Q： 自社株取得は、継続的に行われると期待してよいか。

A： 自社株取得については、キャッシュ・フローの状況をはじめ、全般的な経営状況を見ながら、適時適切に判断します。

今回、「総還元性向」に目標を変更し、株主還元の充実に向けて誠実に取り組んでまいります。

Q： 有利子負債残高の目標を「3兆円」とする理由は。

A： 財務体質を改善していくため、これまでと同様、債務を着実に削減していく方針であり、今後、概ね10年程度、2020年代中には、連結有利子負債残高を3兆円とすることをひとつの目安とすることとしました。

なお、一般への浸透度を考え、従来の「長期債務」にかえて今後は「有利子負債」を対象とすることとしました。

以 上